

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【 伊勢崎市立宮郷中学校 】

1 実践テーマ	I・III・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生徒（男子382名 女子376名 計758名） 第1学年（男子141名 女子127名 計268名） 第2学年（男子114名 女子144名 計258名） 第3学年（男子127名 女子105名 計232名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（保健体育・道徳） ② 行事名（体育大会・講演会2） ③ その他（生徒会の活動・美術部の活動） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学びを通して、スポーツに対する興味・関心の向上やスポーツを楽しもうとする心の育成を図る。また、オリンピック・パラリンピック選手の生き方を通して、自分自身を振り返り、よりよい生き方をしようとする心の育成を図る。
5 取組内容	(1) 保健体育の授業における実践 ① 各学年の体育理論の学習において、オリンピック・パラリンピックの意義や歴史について扱い、理解を深めた。 ② 特別支援学級の保健体育の授業においてポッチャを扱い、競技の楽しさを味わうとともに興味・関心を高めた。 (2) 道徳の授業における実践 ○ 11月の人権週間の取組の一環として、全学年で「I'm POSSIBLE」の教材を道徳の時間に資料として扱った。 <教材名> ・1-1「パラリンピックってなんだろう？」 ・1-2「勇気、強い意志、インスピレーションについて考えてみよう！（香西宏昭選手編）」 ・1-4「『公平』について考えてみよう！」 (3) 学校行事における実践 ① 体育大会の開会式において、生徒会の生徒がオリンピズムの5つのテーマのオーナメントを掲げ、全校生徒の意識付けを図った。また、生徒代表が、オリンピックの4つの価値を踏まえた選手宣誓を行い、体育大会とオリンピック・パラリンピックの価値を結びつけた。

- ② 人権教育講演会では、車椅子バスケットボールチーム「群馬マジック」の代表である高橋俊一郎さんをお招きし、講演と体験学習を11月27日に実施した。
- ③ オリンピック・パラリンピック教育特別講演会として、東京オリンピック飛び込み競技代表の寺内健選手をお招きし、12月10日に講演を実施した。
- (4) 生徒会活動における実践
 - ① 生徒会のスローガンを、オリンピック・パラリンピック教育推進校を意識したものとして作成した。
 - ② 寺内健選手の講演会では運営に関わり、事前の準備や当日の進行等をその意義や目的を踏まえて行った。
- (5) 美術部による実践
 - ① オリンピズムの5つのテーマを掲げるオーナメント及びポスターを制作した。
 - ② 寺内健選手の講演会のお礼に似顔絵を描き、代表生徒が渡した。



(1)-2 ボッチャの実践



(2) 道徳の時間の授業実践



(3)-① 体育大会開会式の様子



(3)-② 車椅子バスケット体験



(3)-③ 寺内健選手講演会の様子



(5)-① 美術部が制作したポスター



(4)-① 生徒会のスローガン

<p>6 主な成果</p>	<p>(1) オリンピック・パラリンピックの興味・関心の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 保健体育の体育理論の学習において、オリンピックの意義や歴史を知ること、より多くの視点からオリンピックを見ようとする意識が高まった。 ② 美術部のオーナメントやポスターを全校生徒の目に見える場所に掲示したことにより、本校がオリンピック・パラリンピック教育推進校であることやオリンピックの持つ価値について意識を高めることができた。 ③ 生徒会のスローガンをオリンピックに関連付けたことで、推進校としての取組が生徒主体のものとして印象づけることができた。 ④ 東京オリンピックに出場する寺内健選手の話を知ることができ、オリンピックが生徒たちにとって身近なものとなった。講演会後には、「オリンピックを見たくなくなった。」「すごく楽しみになった。」という声が大変多く聞かれた。 <p>(2) よりよい生き方をしようとする意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「I'm POSSIBLE」の香西選手の資料を道徳の時間で扱う中で、車椅子というハンディを特別なこととして捉えていた生徒が、そのハンディを乗り越えようとする香西選手の生き方に触れ、同じ人間として香西選手の生き方の凄さ、素晴らしさを感じることができた。 ② 寺内健選手の講演の中で、寺内選手がここまで決して順風満帆ではなく、いくつもの挫折を繰り返しながら乗り越えてきたことを知ること、オリンピック選手を特別な存在ではなく、身近に感じることができた。事後の感想の中で、講演の内容を自分たちの生活に生かそうとする声が多く聞かれた。 <p>(3) スポーツを楽しむ心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 保健体育の授業でポッチャを扱うことで、運動の得意・不得意に関わらず誰もが楽しめたり、仲間と協力することでより楽しくなったりするスポーツの価値を生徒たちが感じることができた。 ② 車椅子バスケットボールの高橋俊一郎さんの講演会において、本校バスケットボール部の生徒が代表として車椅子バスケットボールを高橋さんと一緒に体験したことで、巧みに車椅子を操作してシュートする高橋さんの凄さに触れるとともに、代表の生徒が車椅子バスケットボールを純粋に楽しみ、その姿を全校生徒が応援することでスポーツの持つ価値を共有することができた。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(1) 教育活動に“加える”</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 体育大会の開会式において、オリンピックの精神を踏まえた選手宣誓をすることで、全校生徒の意識付けと周知につなげた。 ② 人権週間における道徳の授業において、「I'm POSSIBLE」の教材を扱い、パラリンピアンへの生き方に触れながら道徳の時間本来のねらいの達成につなげた。

	<p>(2) 教育活動を“つなげる”</p> <p>① 人権週間の中で、香西選手の資料を扱った道徳の授業を全校で行った後に高橋さんの講演会を行ったことで、パラリンピアンの方の生き方や車椅子バスケットボールへの興味・関心を高め、その価値を深めた。</p> <p>② 寺内健選手が講演で伝えた「目標の作り方」や「一流選手として必要なピラミッド」を、クラスの事後指導で振り返らせ、日常につなげた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>(1) より生徒主体の取組に</p> <p>今年度は、生徒たちに推進校であることを周知し、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めることに重点を置いた。そのため、教師側の意図が色濃く出ていた印象が残った。今後は生徒たち自身がオリンピック・パラリンピックのことを積極的に調べたり、その価値を自分の生活に生かそうとしたりできるようにしていきたい。</p> <p>(2) 教育活動をさらにつなげていく</p> <p>今年度は、これまであった教育活動にオリンピック・パラリンピックの価値や要素を加えて取り組んだが、活動が点で終わってしまうことが多かった。教育活動を見直し、目標達成に向けてつながるように計画を立てていく必要がある。また、次年度は7～9月の東京オリンピック・パラリンピック開催を踏まえてつなげられるとよい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>(1) 生徒主体の取組に</p> <p>生徒会を中心に、部長会や学年委員会を含めてプロジェクトチームを組織し、東京オリンピック・パラリンピックの日程や競技等について掲示したり、オリンピック・パラリンピックの価値を日常の取組につなげていくための手立てを考えたりしていきたい。</p> <p>(2) 目標達成に向けて活動をつなげる</p> <p>夏のオリンピック・パラリンピック開催を軸として、開催までに生徒の興味・関心をいかにして高めていくか、また開催後に日常生活にいかにつなげていくかに重点を置き、活動計画を立案していきたい。</p>